

地域政策学会北海道支部 第8回研究大会報告

【実績】

日時：2024年1月20日（土） 13：30～16：00

場所：北海道大学 学術交流会館／Zoom

テーマ：持続可能な地域づくり・まちづくり

構成：

<第一部 講演・発表>

○基調講演Ⅰ『『持続可能な地域づくり・まちづくり』の現在地』

北海学園大学経済学部 教授 西村 宣彦 氏

○基調講演Ⅱ「はまなす財団が考える持続可能な地域づくり」

公益財団法人はまなす財団 専務理事 谷 一之 氏（元下川町長）

○研究発表

1. 「誰ひとり取り残さない社会をめざして」

一般社団法人とかち子育て支援センター 代表理事 長岡 行子

2. 「高校と地域の協働の展開と可能性」

北海道大学大学院地球環境科学研究院 学術研究員 神 志穂

3. 「観光地に対する持続可能性指標の国際比較」

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 准教授 石黒 侑介

<第二部 パネルディスカッション>

パネリスト：北海学園大学経済学部 教授 西村 宣彦 氏

公益財団法人はまなす財団 専務理事 谷 一之 氏

コーディネーター：日本地域政策学会 北海道支部 支部長 石黒 侑介

参加者：87名（会場28名、オンライン59名）

後援：北海道、北海道経済連合会

【概要】

基調講演Ⅰでは、北海学園大学経済学部 教授 西村 宣彦氏より、持続可能な地域づくり・まちづくりの現状と今後について講演いただいた。まず「持続可能な地域づくり」の文言が、地球温暖化などの地球規模の課題への地域の貢献と地域そのものの持続可能性の二つの側面から使われており、SDGsの普及が「持続可能な地域づくり」の適切な理解と取り組みの展開を促してきたことが示された。そして、これからの人口減少社会における「持続可能な地域づくり」のあり方として、歴史・文化・芸術面の充足や異質な他者への寛容性など、人口の社会増をもたらす「地域の魅力」の向上や、グローバル課題に対応して脱炭素をすすめる「エネルギー自給率」の高さを地域の魅力や強みにすること、中間支援組織等の専門

性をもつ外部人材と連携し、意欲や思いある住民の取り組みを支援すること、少ない人材で地域の暮らしや事業が成り立つよう DX などの合理化や効率化に取り組むことが示された。

基調講演Ⅱでは、公益財団法人はまなす財団 専務理事 谷 一之氏より、同財団が考える持続可能な地域づくりについて講演いただいた。SDGs の原則「誰一人取り残さない」の同氏による意識「世界 (Sekai) の誰も (Daremo) が元気 (Genki) で幸せ (Shiawase) になる (=SDGs)」が紹介され、持続可能な地域づくりに向け、住民が地域資源を生かしながら課題を解決しより良い暮らしを作る、という「地域経営」の観点、担い手の「市民セクター」に寄付をしやすい受け皿の重要性が示された。「地域経営」には、P.P (考えようとする力) P (考える力) D (まとめる力) C (行動する力) A (振り返り改める力) を磨き「政策形成力」を高めること、愛着や課題解決能力を持つ担い手の育成が必要とのことであった。最後に、地域づくりには一歩踏み出す勇気と情熱が必要であることが強調され、キーワードとして「ウイークポイントをチャームポイントにする」「七転び八起きの精神力」「押しても駄目なら引いてみる」などが示された。

研究発表では、3名が発表を行った。

パネルディスカッションでは、基調講演の2名をパネラーに、支部長の石黒をコーディネーターに議論した。誰一人取り残さない、持続可能な地域づくりに向けたヒントとして、時に理想と現実の矛盾を抱えながらも人間が生きていけることを擁護すべきであること、バックカastingで目標に向けて今何をすべきかを考えること、継続的に活動すること、SDGs はツールとして利用すべきであり行政・企業・住民それぞれにメリットがあることのほか、特に人材の大切さが強調され、チャレンジャー (思いを持ち動き出す人) を増やすことや話し合いの場を作り感情と情報を共有すること、地域おこし協力隊など若い世代を取り入れていくこと、地域のファンを作ることが提示された。

